平成 24 年度アベリスツイス高校生派遣事業
実績報告書

加悦谷高等学校　３年　Ｃ．Ｕ．

私がこの派遣事業を知ったのは高校生になってからで、同じクラスの友達が参加する事がきっかけでした。その時は、外国に行けるなんて良いなぁと深く考えることもせずただ羨ましく思うだけでした。今年の夏休みに、その友達が「(参加を）考えてみたら？」と研修内容等が書かれた募集呼びかけのメールをしてきたことで、これは自分の英語力が今どのくらいなのかを試す良い機会になるのではないかと思い応募しました。

全 5 回の事前研修には、私事で 3 回しか行けませんでしたが、その 3 回の中でこの交流のきっかけを知り、又この交流が成す意味であったり目的を実際に経験する中で知る大切さも知りました。事前研修を重ねるごとに、私（達）が町の代表として、互いの歴史や文化を理解し両町の友好関係を更に深め、それを次へと繋げていかなければならないのだと思うようになりました。

アベリスツイスへ

アベリスツイスへ行く日、私は海外初経験になるので飛行機に乗ることが不安で仕方なかったです。無事に飛行機に乗れたのはいいですが、とにかく長かったです。飛行機に乗る不安感のせいか緊張してあまり寝られずドバイへ。ドバイでの荷物検査にもすごく緊張してました。そこから、また長時間のフライトを経て、バーミンガムへ。そのとき雨が降ってて、本当にイギリスって天候が悪いんだと思ったことを覚えています。そして、鉄道でアベリスツイスへ。風景を観て感動しながらも、ホストファミリーに会うことに対し緊張感が高まっていきました。アベリスツイスへ着いた瞬間、各ファミリーが総出でお迎えをしてくれ軽く挨拶し、ものの数分ぐらいで解散でした。事前に言われた通り、展開が早くてびっくりしました。

ホストファミリー

私を受け入れてくれたのは、昨年の受け入れ事業に参加したハリーの家でした。正直、男の子となんてうまくコミュニケーションをとれるのか不安でした。が、流石外国、と言っていいのでしょうか、とってもフレンドリーでした。

ハリーとホストマザーのニコラ二人ともが、とても親切でした。滞在中、家に着けば必ず「何か飲みたい？」と聞いてくれ、「お腹減った？」、「何が食べたい？」、「何がしたい？」、「お風呂はいつ入りたい？」などなど、こちらに凄く気を遣って質問してくれることが多かったです。

アベリスツイス訪問日程

5 日

校内見学・Fireworks

☆校内見学（Penglais School）では

Art : 生徒たちの作品を沢山みせてもらいました。デザイン・服飾・グラフィック・ものづくり。どれもが、本格的で日本の芸術系の専門学校に近いのではと思うぐらいでした。作品をみせてもらったあとには、習字をしました。自分達のホストスチューデント（ファミリー）の名前を書いてプレゼント。私の中では、あまりよくない出来でしたが、それでも喜んでくれ嬉しかったです。

Cooking : イギリスのお菓子、Shortbread を作りました。料理とか苦手で、下手な自分で不安でいっぱいでした。案の定、みんなと同じ材料で同じ量なのにも関わらず生地がボロボロするという事態が発生。結果、見た目も味もそこまで悪くはなってなかったので安心しました。ホストファミリーもおいしいと言って、食べてくれたので良かったです。

Music : 何をやってるのかよく分からなかったのですが、ハイレベルであることは分かりました。日本の学校みたいに楽器を演奏するのですが、ある曲の楽譜を見て演奏するのではなく自分で考え、自分のアイデアを表現するために演奏していました。

☆花火（Fireworks）では

近くのラグビー場から見ました。花火は綺麗でしたが、やっぱり日本のが良いなと思いました。そして、とても寒かったです。

6 日

Fercher Portmeirion・Caernarfon Castle

☆Portmeirion では

様々な色、形の建物を見ながら歩きました。途中、昼食をとるために Town Hall Self Service というところに行ったり、お土産を買うためにお店に寄ったり、アイスクリームを食べに Cadwaladers Ice Cream に寄ったりしました。

☆Caemarfon Castle では

これは本来その日の予定にはなかったのですが、アウエルさんが「こういうところがあるんですが行きたいですか？」と言ってくれたので行きたいですと答えると連れて行ってくれました。外壁沿いをずっと歩いて回りました。ところどころにウェールズの国旗が見られました。お城自体はすごく頑丈で日本とは違うなと思いました。ちなみにこのお城は、ラピュタのモデルとなったとされている場所の一つらしいです。

7 日

山歩き・Marchynlleth market

☆山歩き（Cader Idris）では

ジェイクさんに城跡を案内していただき、城がいつ頃でき、またその当時の戦争にはどんな武器を使っていたか等を教えてもらいました。今では、周りは自然に囲まれ牛や羊たちがいるけれど当時の景色はどのようなものだったのだろうかと思いました。

Lunch

昼食では、イギリスの伝統料理「Fish＆Chips」を食べました。とても美味しかったです。やっぱりボリュームがすごかったです。

☆マーケット（Marchynlleth market）では

沢山お店が開いてありましたが、時間の関係で回れたのは少しでした。安くで色々なものが売っていたので見るだけでも楽しかったです。

夜は、ハリーのお家で他の子とそのホストスチューデントとでトランプをしたり雑談したりしました。

8 日

校内見学・コンサート

☆校内見学（Penwedding School、Primary School）では

Penglais とはまた違い、それでも建物の構造はすごく広かったです。食堂がかなり広かったです。小学校では、戦争時の劇を披露していただき歌も聴きました。イギリスだけでなく、日本や他の国から来ている子もかなりいました。

☆コンサートでは

演奏やコーラス、独唱を聴きました。日本でこういうコンサートに参加する機会はほとんどないので良かったです。全てが終わったあと、みんなで歌を歌うのですが、その後揃って台詞を言っていました。何を言っていたのかよく聞き取れなかったのが残念で、今でも気になります。

9 日

National library・Museum・歓迎会

☆National library では

図書館はもちろん、絵画などの展示物を保存する場所であったり、歴史や文化の資料館を回りました。すごい数の本であったり、絵画があったので同じ田舎とは思えませんでした。

☆Museum では

ミュージアムでは、昔に使用されていた農具であったり民族衣装、食器や道具

などを見て回り、又その当時の演劇についても教えてもらいました。

☆歓迎会では
スピーチはとても緊張しました。あとで、良かったよとホストファミリーに言ってもらえたのでよかったです。余興も楽しんでもらえたみたいで、良かったですし、私達が持ってきた日本のお菓子や伝統物に触れてもらえ本当に良かったです。

10 日
ジェイミーのお家訪問・ショッピング・Wasabi
☆ジェイミー宅では
ハリーと大親友で今回の受け入れに携わってくれたジェイミーの家に訪問し、その後おいしいと言われているアイスクリーム屋に連れて行ってもらいました。ハチミツを固め粉々にした粉末をソフトクリームにまぶし、チョコスティックをさしたアイスを食べました。めっちゃくちゃ美味しかったです。

☆ショッピング
アベリスツイスの海沿いにある店を回りました。日本でいう 100 均みたいなところがあり感動しました。売ってあるものも建物も全てが魅力的でした。

☆Dinner
夕食は、みんなで集合し Wasabi というところで食べました。色々ありましたが、日本食の料理店がこんなところにあるということに感動しました。

11 日
パレード・フランクエバンス氏の墓参り
☆パレードでは
この日は、イギリスの終戦記念日でポピーの日（Remembrance Day）と言われています。10 回の訪問事業の中で初めてのパレード参加らしくとても光栄に思いました。

☆フランクエバンス氏の墓参りでは
それぞれに花束を持ち、花を供えみんなでありがとうございますを意味するウェールズ語「Diolch yn fawr.」といいました。この交流ができるきっかけを作ってくれたことに対し、またこの交流を通しての平和の重要性を気づかせ理解させてくれたことに対し感謝しました。

12 日
ショッピング
アベリスツイスから少し離れた、お店が沢山あるところへ連れて行ってもらいお土産を買いました。11 月という時期もあるのか既にクリスマスの準備がされて

いるところが多かったです。ショッピングから帰ってきたときには、スーパーにも寄りました。めちゃくちゃ広かったです。

学んだこと

日本と同じようなこともありましたが、やはり違うことの方が多かったで。

同じこととして挙げられるのは、交通。アベリスツイスは、日本と同じで右ハンドル左走行でした。多分、違和感無くすんなり乗れたのもそのおかげです。日

本の会社の車が使われていました。
　違うことといえば、食事。普段箸使いが多い自分にとってナイフとフォークの使用は難しかったです。そして、料理はあまりおいしくないと聞いていましたが、そんなことが一切無くおいしいものばかりでした。私の好みに合わせて、ヌードル（麺料理）を作ってくれたり、伝統料理を作ってくれました。
　あとは、学校。ここは、本当にほぼ全てが違います。まず棟が結構あり分かれていて、教室の数が多いです。絶対覚えるのに時間がかかります。あと、生徒達の制服は日本みたいにきっちり上下ではなく、上だけです。すごくラフな感じで羨ましいです。授業の制度も、日本の大学みたいな感じで自分の選択科目のみ出席というものらしく、授業が無い時間には自由に行動できるそうです。

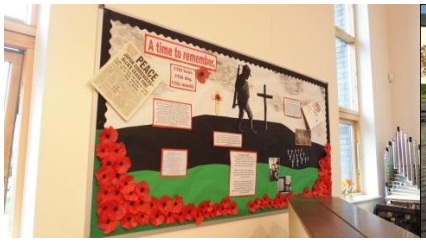
最後に（まとめ）

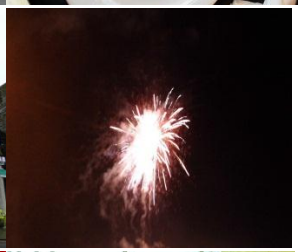
この派遣事業に参加できたことは本当に良かったです。交流を通し、フランクエバンス氏の思いを理解し、また平和に関して考えを深めるとても良い機会になりました。

最初は、英語力の乏しさのためにコミュニケーションをとることに対し不安を抱いていましたが、行ってみるとそうでもなかったです。単語だけの拙い英語でもちゃんと聞いてくれ理解しようとしてくれました。ホストファミリーを含めアベリスツイスで出会った方々は、本当に親切でした。言語がどうとか以前に、同じ人間として接し合えているような気がしました。英語だけでなく、ウェールズ語も少し話しました。ウェールズ語の発音はすごく難しいのですが、挨拶程度でも話してみるとすごく喜んでくれ、褒めてもくれました。

フランクエバンス氏の訪問がきっかけで、このような交流が今でも続き、そしてこの交流に自分が参加できたこと、この交流に際し、携わり支えてくれた多くの方々に感謝します。

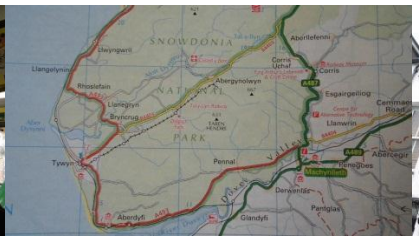
将来、この交流が続くよう私が経験したこと、フランクエバンス氏の思いを多くの方、特に高校生や若い世代の人達に伝えていきたいです。





イギリス・アベリストウイス高校生派遣事業　報告書

福知山成美高等学校　３年　Ｓ．Ｙ．



１．はじめに

９月１０日、正式に２０１２年度イギリス・アベリスツイス高校生派遣事業のメンバーになり、事前研修を経てアベリスツイスへ旅立ち、帰国。いろんな思いを胸にドキドキ、ワクワクした２か月間でした。戦争・捕虜のことを改めて見つめ直すことができ、素敵な出会いもありました。見たこと、聞いたこと、感じたこと、すべてを記すことはできないかもしれないけど、今の素直な気持ちを報告書として提出します。

＜日程＞

１１月０３日（土）	関西空港　発
１１月０４日（日）	ドバイ　着
	ドバイ　発
	バーミンガム　着
	バーミンガム　発
	アベリスツイス　着
１１月０５日（月）	交流期間
	↓
１１月１３日（火）	アベリスツイス　発
	バーミンガム　着
	バーミンガム　発
１１月１４日（水）	ドバイ　着
	ドバイ　発
	関西空港　着

２．出発までの事前研修会

野田川庁舎でアベリスツイスとの交流意義、ウェールズ・アベリスツイスについて、歓迎会での余興練習、ホームステイの心得など、合計５回の事前研修を行いました。

第４回事前研修では、大江山運動公園慰霊碑前で慰霊と誓いの祭事をし、糸井定次会長や与謝野町アベリスツイス友好協会の方から慰霊碑が立てられた経緯、フランク・エバンス氏の思いを聞き、私たちもお花を供え、黙とうをしました。さらに、ニッケル鉱山跡の３本の煙突と日中の碑の見学もしました。

３．ホストファミリー

４人家族＋３匹の犬がいるお家にステイさせてもらっていました。
大きなお家でリアル暖炉が３つもありました。

お父さんは牧場を経営していて、びっくりするくらい大きな牧草地で多すぎるくらいの羊を飼育しています。牛もいっぱいいました！学校に通うときのバス停への送り迎え、駅までの送り迎えなど、とてもお世話になりました。夕食後の食器の片づけはお父さんのお仕事。水曜日の夜はジェイミーと２時間のランニングに出かけます。

お母さんは動物病院勤務。朝が苦手。スコットランドの料理や田舎料理など、毎日家庭的な食事を作ってくれました。チャリティーの取り組みに積極的に参加していて、ついこの間もサハラ砂漠を横断し、歩いた距離でお金を集めたそうです。町の新聞にもその記事が載っていました。走ったり、マウンテンバイクで運動したりアクティブなママです。

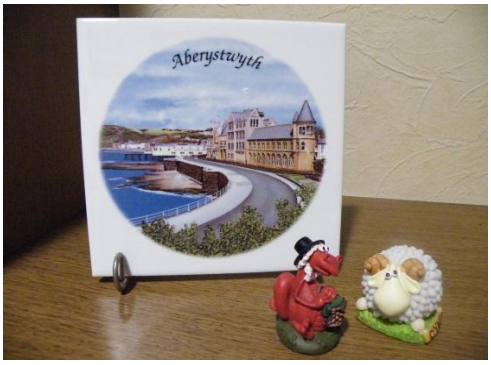
お姉ちゃんは２１歳でドバイの大学に通っているため、一人暮らしをしています。アイスホッケーチームに所属しているそうです。

ホストブラザーのジェイミーはすごく優しい１７歳。背がとにかく高い！去年、与謝野町に研修生として来ていたので、日本のこともよく知っていました。お土産であげた龍のプリントのＴシャツを気に入ってくれました。好きな日本料理はたこやき。お城は大阪城が一番好き。お気に入りは広島で買ったグレーのサルエルパンツ。現在、車の免許を取得するのに奮闘中。車の名前はグレイグです。

隣のお家に住んでいるお父さん側のおじいちゃん、おばあちゃん。おじいちゃんは日本ツウで家の中に兜が！東京、名古屋、横浜、京都、広島などなど何度も日本に来ていて、富士山も登ったことがあるそうです。私のことを矢野さんと呼んでいました。

４．ウェールズ

人口より羊が多い地域なだけあって、羊、ひつじ、ヒツジ！！！（たまに牛と馬！！）周りの景色は高い丘と羊、でした。「どこまで行っても景色が変わらない・・。」と呟いた私をホストファミリーは笑っていました。もちろん家族や親せきへのお土産のひとつは羊の置物です。



イギリスといえば「ユニオンジャック」ですが、ウェールズといえば Y Ddraig Goch （赤い竜）の国旗です。卵のパックや牛乳・ジュースのパックにプリントされているのはユニオンジャックではなく赤い竜。町中のお家に掲げてあるのも赤い竜の国旗。学校の中も赤い竜でいっぱいでした。マスコット化しているようで、ホストファミリーから竜のぬいぐるみ、国旗がプリントしてあるピギーバンク、国旗のバスタオル、Ｔシャツをお土産に頂きました。自国愛が強く、ウェールズを誇りに思い伝統を大切にしていること、また私たち日本からの訪問者に知ってほしいという気持ちがすごくよく伝わります。

英語とウェールズ語を使うウェールズ人。最初は英語で話してくれていてもテンションが上がったり話が盛り上がりだすと、だんだん２つの言語が混ざり、最後はウェールズ語オンリーになる、そんな人にたくさん出会いました。アウエルさん（現地の友好協会会長さん）がいつもウェールズ語で簡単なあいさつをしてくれて、教えてくれていたので私もお店ではできるだけウェールズ語で挨拶をしていましたが、発音が難しくてなかなか言えず苦戦しました。ここで少しだけですが、私が覚えたウェールズ語を紹介します。

Croeso　（Welcome　　ようこそ）
Bore da　（Good Morning　　おはようございます）
Nos da　（Good night　　おやすみなさい）
Sut rydych chi　（How are you?　　お元気ですか？）
Da　（Good　　良い）
Da iawn　（Very good　　とても良い）
Diolch yn Fawr　（Thank you very much　　ありがとうございます）

ウェールズ語ではこのくらいの本当に簡単なコミュニケーションしかできなかったけど、頑張って言うとみんな嬉しそうにしてくれて楽しかったです。
それではここで豆知識！ウェールズ語と日本語には少し不思議な繋がり（？）があるんです。私も聞いたときは混乱しました。アウエルさん曰く、「変な感じがする」と聞く人みんな言うそうです。

W	E	J
Ie	Yes	Hai
Na	No	Ie

わかりますか？
ウェールズ語の「はい」と日本語の「いいえ」は同じ「いいえ」発音なんです。つまり、ウェールズで「いいえ」というと「はい」という意味になるのです。ややこしい！！

　ウェールズの代表的なお土産といえば、ラブスプーン。木製のスプーンで大きさは小さいのから大きいのまでさまざまです。形もシンプルなものから凝ったデザインまでたくさんあります。それぞれの形に意味があり、ハートは「I love you」という意味だそうです。スプーンに直接文字が彫られていたり種類も豊富です。私も家族と親戚、先生、友達にプレゼントしました。

５．滞在中の生活、出来事

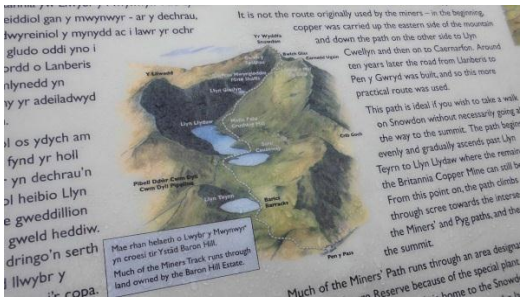
Aberystwyth（アベリスツイス）滞在中にアウエルさんをはじめ、キャロラインさん（ペングライススクールの先生）の旦那さん、ジェイミー、みんなのホストファミリー、いろんな人にいろんな場所に連れて行ってもらいました。訪れる場所ひとつひとつが触れたことのないウェールズの文化であふれていました。

１１月０４日（日）　アベリスツイスよりひとつ前の Machynlleth（ウェールズ語の地名で最後までうまく発音できなかった・・）でひとり先に下車。ホストファザーとホストブラザーのジェイミーが出迎えてくれました。疲れと緊張でとても眠たくて、夕食後すぐにベッドに入りました。

１１月０５日（月）　ジェイミーの通っているペングライススクールへ。ホストハウスと学校は車で１時間ほど離れていてアベリスツイスより北の Tywyn（タウイン）という町にあり、ジェイミーは毎日６時４５分に家を出ます。私も一緒に２つの市バスを使って登校しました。ペングライスの生徒で１０年イギリスに住んでいる真里桜ちゃん（１８歳）に校内を案内してもらい、Art（習字で生徒さんの名前を書きプレゼント）Cooking（ショートブレッドを作り）Music（キーボードを使ったレッスン）の授業に参加させてもらいました。日本の学校ではみんなが同じ方向を向いて座り、先生の話を聞くというスタイルですが、海外の学校は違います。最初に先生が軽く説明して、あとは各自でやる、責任は自分でとるスタイルでした。大きな子供ではなく小さな大人と言われているのがよくわかります。

１１月０６日（火）　アウエルさんの運転で Portmeirion（ポートマリオン）　へ。前の日にホストマザーが「素敵なイタリアンの村（イタリアの家屋が並んでるという意味？）だからね、楽しんでね」と教えてくれました。カラフルな可愛らしい建物がたくさん並んだ場所でした。ホテルになっているそうで長期休暇に借りるのがオススメだそうです。ヨーグルトのアイスクリーム、美味しかったけど寒かったです。そのあと、カムリという大きな建物（天空の城ラピュタのモデルになったという噂の建物な気がする・・）、カントリ

一感あふれるお店（トイレ休憩によったんだと思っていたので場所がわからない・・）にも行って少しお買いもの。雨が降っていたので登れませんでしたが、snoudon（スノードン）というウェールズで一番大きな山にも行きました。

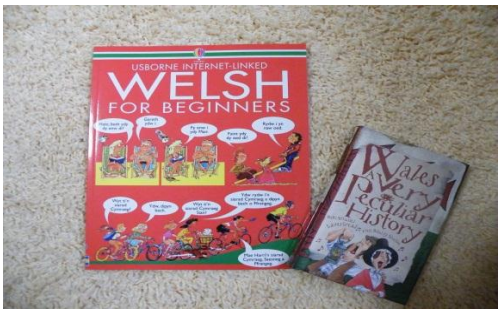


１１月０７日（水）　、Machynlleth のマーケットへ。ペングライスに集合して、まず職員室で朝の連絡を聞きました。学校の中庭にある太田町長が植えた椿の前で記念撮影をしたあと、アウエルさんの運転でキャロラインさんの旦那さんとお城跡に行きました。私が想像していた城跡とは全然違って、外壁が少し残っているという形でした。歴史を感じることができました。お昼は Machynlleth でフィッシュアンドチップスを食べました。量は多いけど、やっぱり美味しい！私はチップスにビネガーをかけて食べるのが一番好きです。ジェイミーとハリーと合流して、マーケットで少しお買いもの。可愛いお店が多くて見ているだけで幸せな気持ちになりました。

１１月０８日（木）　２つの小学校、Penweddig school（ペンウエディングスクール）へ。楽しみにしていた小さい子供がたくさんいる小学校を訪問しました。子供でもしっかりしていて、校内を案内してくれました。寒いのにとっても元気でした。先生から紅茶とクッキーを頂いて、日本とイギリスの学校の違いについて話しました。２つ目の学校でもみんなウェールズ語であいさつしてくれて、授業参観もさせてもらいました。敷地内にお城をモチーフにした建物があり、校内でもたくさん赤い竜を発見しました。お昼前に歩いてペンウエディングに行きました。ここはペングライスとは違ってウェールズ語の学校です。生徒さんに校内を案内をしてもらって、お昼はカフェテリアでパスタを食べました。午後はペングライスに行って校長先生やキャロラインさん、ドナさんからペングライススクールのスクールユニフォームとラブスプーンチョコをプレゼントしてもらいました。これは本当に嬉しかったです。記念写真を撮って、ジェイミーと C ちゃんとハリーのお家に帰りました。夕食はハリーのお母さんのレストランでごちそうになって、コンサートに行きました。アベリスツイス大学内のホールでオーケストラ演奏やソロ、コーラスを聞いて、ジョーク（だと思う・・）もありの楽しいコンサートでした。途中で帰ったので最後まではわからないけど、お祈りをしたりもしたそうです。

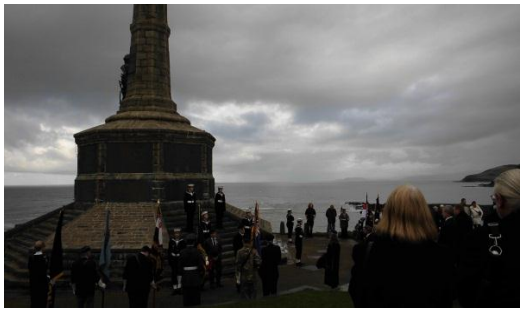
１１月０９日（金）　ナショナルライブラリーと博物館へ。ナショナルライブラリーでは職員しか入れないようなカードや暗証番号がガッチリいる部屋に入れて頂きました。案内してくれた方は日本語で自己紹介をしてくれてすごく上手でした。貴重なお話や本、絵画が見れて嬉しかったです。お昼はハリーのお母さんのレストランで食べて、博物館へ。一通り説明を受けて、みんなで回りました。昔の暮らしが再現してあるコテージや飼育小屋、時計、港町の雰囲気が出ていて、博物館が好きな私には滞在時間が少し短かったです。もう一度行きたい！そのあと、桜の木が植えてあるタウンホール前で集合写真を撮り、一時解散しました。ハリーのお家で着替えなどレセプションの準備をさせてもらって６時半に会場に行きました。７時からレセプションが始まって、まず腹ごしらえ。サンドイッチやスイーツがいっぱいで美味しかったです。一段落すると、友好協会の方々の挨拶や井上さん、私たち研修生の自己紹介（緊張していたことしか覚えてない）でした。持ってきた日本のおかしや日本文化のおもちゃをとても喜んでもらうこともできて、話すきっかけを作ることもできました。写真もたくさん撮れて思い出いっぱいです。家族との会話の糸口も増え、距離がグンと縮まった日でした。

１１月１０日（土）　お昼前、ハリーとＣちゃんがお迎えに来てくれて、４人でお父さんの牧場へ。牛とトラックを見せてもらいました。そのあと、お母さんの職場の近くにあるアイスクリーム屋さんへ行ってハニーパウダーがいっぱいついたアイスクリームを食べました。美味しかった～！とても気に入ったのでお土産にハニーパウダーとチョコレートパウダーを買いました。そのあとハリーの運転でアベリストウイスの町にお出かけしました。ジェイミーとハリーはラグビー観戦に行き、私たちはお買いものをしていました。ケルディックさんのお店でたくさんのお土産を買い、ウェールズ語の本や歴史の本も購入。クラスのみんなへのお菓子も買いました。夜は今年の研修生６人、去年来ていた研修生６人の１２人で日本食のお店「わさび」に行きました。久しぶりの日本食でテンションも上がり、からあげやラーメンを食べ、みんなでわいわい話すことが出来ました。そのままハリーのお家に帰ってお泊り会。ハリーポッター鑑賞、楽しかったです。



１１月１１日（日）　朝はハリーのお母さんお手製、イングリッシュブレックファーストを食べ、１０時から戦争のパレードに参加。ケルディックさんに説明をしてもらいながら、海辺に立っている塔まで歩きました。１１時、大きな空砲の音がしたあと、トランペットの演奏・代表者の方の挨拶があり、参列者で黙とう。ポピーの花で作られたリースをたくさんの人が塔の下に並べていました。最後に町の新聞記者さんに写真を撮ってもらいました。帰国後、ケルディックさんのおかげで私たちが載っている新聞を見ることもできました。そして、フランク・エバンス氏のお墓まいりへ。アウエルさん、ケルディックさん、ドナさん、みんなのホストファミリー集合でエバンス氏を訪問です。アウエルさんからお話しを聞き、それぞれが用意したお花を供えました。６人で声を揃えて「Diolch yn Fawr」（ありがとう）。たった一言でしたが、たくさんの思いが詰まっていました。解散後

はお家に帰ってのんびりタイム。テレビを見たり、パソコンを借りて過ごしました。



１１月１２日（月）　ジョー（S ちゃんのホストブラザー）、セリーン（A ちゃんのホストシスター）、レア（W ちゃんのホストシスター）、グエンヒアン（Y ちゃんのホストシスター）と研修生６人とで Shrewsbury へ。アベリスツイスから２時間くらいのところにある町に最後のお買いものに行きました。ひとり違う駅から乗車した私は行きの電車でみんなと合流することができず、Shrewsbury の駅で合流。ショッピングモールで紅茶の葉や友達へのプレゼントを買いました。タウインに帰ってきたのは５時半頃。夕食までの時間に急いでパッキングです。最後の日だったのでお母さんが豪華な夕食を用意してくれました。大好きなカリフラワーチーズもあってすごく美味しかったです。食後はジェイミーとシンプソンズ鑑賞。次の日の朝が早い出発だったので、９時３０分頃、お母さんとガールズトーク、お別れのハグをして、プレゼントにウェールズの言葉やラブスプーン、クッキングレシピのポストカードを頂きました。わんちゃん３匹ともじゃれあってお別れを言い合いました。

１１月１３日（火）　お別れの朝、アベリスツイスの駅でアウエルさん、奥さん、キャロラインさん、キャロラインさんの旦那さん、ドナさん、ホストファミリー、たくさんの人に見送られての出発でした。おしゃべりしたり、写真を撮ったり、ハグしたり・・時間はすぐに過ぎていきます。最後の最後までみんなが私たちの体調や安全な旅路を気遣ってくださいました。

６．さいごに

人との出会いや関わり合いを感じることの出来る研修でした。関係者の方だけではなく、たくさんの人が温かく大きな心で、まるで昔からの知り合いが来た、家族が帰ってきたかのように迎えてくださったことに、長年続いてきたこの交流の重みとアベリスツイスと与謝野町、両町の深い繋がりを感じました。

これまでの研修生の方々が感じたこと、私が感じたこと、そして私以外の今回の研修生が感じたこと、すべてが全く同じではないはずです。十人十色の感じ方をそれぞれが形にして伝えていく、発信していくことが大切なことであり、参加させてもらった私たち研修生の果たすべき使命なのではないかと思います。

この交流がこれからもずっと続きますように。平和が永遠に続きますように。イギリス・アベリスツイス高校生派遣事業に関わってくださった方々に感謝します。本当にありがとうございました。